

秋晴れの下、勢いよく飛び出していく第一走者(一般の部)。総勢281人の選手がタスキをつなぎました



## 思いのタスキをつなぐ 市駅伝大会に60チーム

今年で3回目を迎える市駅伝大会が11月4日、中田総合体育館を主会場に開催。開会式では選手を代表し石越中3年の平塚敦也さんが「仲間の汗のしみ込んだタスキを、最後まで全力でつなぐことを誓います」と力強く選手宣誓しました。大会には、年代混合の部、



チームの思いを込めたタスキを次の走者につないでいきます(年代混合の部)

中学生の部、一般の部の3種目5部門に市内から60チームが参加。一般の部(男子)で優勝したチームQP(キューピー)の監督兼アンカーの本吉真弥さん(登米町遠見台)は「過去2大会は佐沼高校に負けて悔しい思いをした。優勝できて本当にうれしい」と笑顔で話していました。

東日本大震災で被災し、市内外の仮設住宅に住んでいる南三陸町の人たちを元気づけようと、11月3日、在日のネパール人が仮設住宅を訪れました。東京に本部がある東京米山友愛ロータリークラブが主催し、佐沼ロータリークラブが共催したものです。当日は、東京からロータ

リークラブの会員約30人が南方仮設住宅を訪れ、ネパールの民族舞踊をみんなで踊ったり、ネパールカレーを振る舞ったりしました。同ロータリークラブの村田彰子会長は「ネパールの人も皆さんのことを応援しています」というメッセージを伝えたかった」と話していました。



ネパールの民族舞踊をみんなで踊ります。舞踊とカレーで体も心も温まる交流になりました。

## 南方仮設住宅でネパール交流 舞踊とカレーで温かく

市立病院などの看護師が看護に関わる研究成果を発表する、平成24年度市立病院等看護部研究発表が、10月27日に開催されました。会場の中田農村環境改善センターには病院、診療所、老人保健施設の看護部に所属する職員ら約140人が出席。六つの施設から選ばれた16人

### 市立病院等看護部研究発表

## よりよい看護のために

がそれぞれの看護の立場からまとめた研究成果を発表しました。「大震災の経験に基づく、災害対策への取り組み」と題して発表した豊里病院看護師の佐々木望美さんは、震災時における病棟マニュアルの作成と机上シミュレーションを試みたことを発表しました。



それぞれの立場からまとめた研究成果をスクリーンに映しながら話す発表者(左)



UEカフェミーティングに参加した人たちが市民を含め約200人が参加しました

## 次の復興支援に向けて UEカフェミーティング

市内登米町を拠点に震災の被災者支援を行っている社会貢献共同体ユニテッド・アース(UE)が、10月20日に「登米・南三陸UEカフェミーティング」を迫町内のホテルで開催、首都圏などから約100人が訪れました。市との共催。被災地の現場を視察し、今後の復興支援活動を話し合うことが目的です。出席した布施孝尚市長は「震災を契機とした新しい視点でのまちづくりが、全国の地方都市が抱える課題解決のモデルになるのではないかと述べ「このUEカフェが、さまざまな意味で新しい第一歩を踏み出せる場となることを期待します」と話しました。

## 漫画家・竹宮さん 企画展

章太郎記念館で開催中



来場者と記念撮影する竹宮さん(左)。年代、男女問わず幅広いファンがいる竹宮さんの漫画の世界

漫画「地球(テラ)へ……」や「風と木の詩」で知られる漫画家、竹宮恵子さんの作品を展示する企画展が、11月3日に石ノ森章太郎ふるさと記念館で開幕。企画展初日には竹宮さん本人が記念館を訪れ、サイン会や記念撮影会などで来場者と交流しました。



企画展初日。開館前に関わらず、大勢のファンが並びました

この企画展のために東京から訪れたという阿久津雅子さんは「竹宮先生の作品からは生命力と躍動感が感じられるので大好きです」と目を輝かせていました。企画展は竹宮さんの複製原画など約180点を展示。来年1月27日まで行われ、最終日には竹宮さんのトーク&サイン会が予定されています。